

公表

事業所における自己評価結果_放課後等デイサービス

事業所名	インクルー常陸太田教室
------	-------------

公表日 2026年 3月 25日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動内容や人数に応じてスペースを調整している。	活動内容や人数に応じてスペースの使い方を工夫していく。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		こどもの状況に応じて職員配置を行っている。	こどもの状況に応じたより適切な配置を検討していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		こどもが分かりやすいよう環境設定や表示を工夫している。	2階で階段利用のため、安全面への配慮や動線の工夫を継続していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清潔で安心して過ごせる環境づくりを心掛けている。	より過ごしやすい環境づくりを意識していく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて落ち着いて過ごせる場所を確保している。	状況に応じて落ち着ける場所の確保をさらに工夫していく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		振り返りや話し合いを行い、改善につなげている。	振り返りの機会を増やし、より業務改善につなげていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者の意見を把握し、運営や支援に活かしている。	保護者の意見をより支援や運営に反映できるよう検討していく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員の意見交換の機会を設け、業務改善につなげている。	意見交換の機会を増やし、改善につなげていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価は行っていない。	第三者評価の導入について今後検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月の運動研修では、全教室の職員が集い、内容の理解を深めている。	研修機会の充実を図っていく。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援内容を整理し、プログラムとして共有している。	より分かりやすい形での公表や整理を検討していく。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		こどもや保護者のニーズを把握し、計画作成に反映している。	より多角的な視点でのアセスメント意識していく。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員間で共有しながら支援計画を検討している。	職員間での共有や意見交換をさらに充実させていく。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	支援計画の理解を深め、より統一した支援につなげていく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		観察やアセスメントを通して状況を把握している。	観察や評価方法の活用を広げていく。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	ガイドラインを踏まえた支援内容を設定している。	ガイドラインを踏まえた支援内容の充実を図っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	職員で話し合いながら活動を立案している。	チームでの検討機会をさらに増やしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	活動内容が偏らないよう調整している。	活動内容の幅を広げていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	こどもの状況に応じて組み合わせ、支援している。	こどもの特性に応じた組み合わせを検討していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	支援前に内容や役割を確認している。	より円滑な連携につながる打合せを行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	支援後に振り返りを行い情報共有している。	振り返り内容を支援改善につなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	日々の記録を取り、支援の改善に活かしている。	記録の活用をより支援改善に活かしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	6ヶ月毎に行っている。	定期的な見直しをより丁寧にやっていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	6	定期的に状況を確認し計画の見直しを行っている。	必要に応じて積極的に参画していく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	こどもの状況を理解した職員が会議に参加している。	地域の関係機関との連携をさらに深めていく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	会議とまではいかないが、情報共有の場を設けてもらい、管理者、児発管が参加している。	機会があれば参加させていただく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	必要時に各関係機関と連絡を取り合っている。	協力医療機関はあるが、その他の連携はあまりないと感じるため、積極的に関わりを持つようにしていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	利用開始前に学校と連絡を取り、挨拶と送迎時の確認、情報共有の仕方の確認を行っている。	送迎時や電話連絡等、今後も必要に応じて情報共有を行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	必要に応じて行っている。	今後は積極的に行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		卒業した子どもがまだいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	関係施設と情報共有しながら支援している。	学校との連携をより円滑に行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		今後、保護者様から要望等あれば機会を作っていく。

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		6		今後、機会があれば参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。		6	送迎時にその日の様子や最近の状況等情報交換をしている。	今後も送迎時や電話連絡、面談等の機会を設けていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6	助言や情報提供を行い家庭支援につなげている。	家庭支援の機会を広げていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		6	利用前後に丁寧な説明を行っている。	より分かりやすい説明を心掛けていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		6	契約時にお子様やご家族の意向を確認し、個別支援計画書に反映させている。	今後も継続し、より良い支援につなげていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		6	利用開始日前に計画について説明し、同意を得ている。	今後も継続、定期的に意向の確認を行っている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		6	送迎時や電話等で必要に応じて保護者様と話をしている。	保護者様のご要望に適切に対応できるようにしていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		6	保護者同士の交流機会づくりを心掛けている。	保護者同士の交流機会について検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		6	相談しやすい体制を整えている。	より周知を図っていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		6	通信やSNS等で活動情報を発信している。	情報発信の方法を工夫していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		6	細心の注意をはらいながら、対応している。	引き続き適切な管理を徹底していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		6	分かりやすい伝達方法を工夫している。	分かりやすい伝達方法の工夫を続けていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	地域との関わりを意識した運営を行っている。	地域との関わり方を検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		6	各種マニュアルを整備し訓練を実施している。	周知や訓練の充実を図っていく。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		6	災害に備え定期的に訓練を行っている。	災害時対応の理解を深めていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		6	服薬や発作等の情報を事前に確認している。	情報共有をより徹底していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6	医師の指示に基づき対応している。	安全確認を継続して行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		6	安全計画に基づき支援を行っている。	安全管理体制の見直しを適宜行っていく。

応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全に関する取組を保護者に周知している。	保護者への周知を継続していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事業所内で共有し再発防止に努めている。	共有と再発防止の検討を継続していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修等を通して職員の理解を深める。	研修等を通して理解を深めていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		必要な場合の対応について事前に説明し計画に記載している。	必要時の対応について職員間で理解を深めていく。

事業所名	インクルー常陸太田教室
------	-------------

公表日 2025年 3月 25日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動内容や人数に応じてスペースを調整している。	活動内容や人数に応じてスペースの使い方を工夫していく。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		こどもの状況に応じて職員配置を行っている。	こどもの状況に応じたより適切な配置を検討していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6	こどもが分かりやすいよう環境設定や表示を工夫している。	2階で階段利用のため、安全面への配慮や動線の工夫を継続していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清潔で安心して過ごせる環境づくりを心掛けている。	より過ごしやすい環境づくりを意識していく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて落ち着いて過ごせる場所を確保している。	状況に応じて落ち着ける場所の確保をさらに工夫していく。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		振り返りや話し合いを行い、改善につなげている。	振り返りの機会を増やし、より業務改善につなげていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者の意見を把握し、運営や支援に活かしている。	保護者の意見をより支援や運営に反映できるよう検討していく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員の意見交換の機会を設け、業務改善につなげている。	意見交換の機会を増やし、改善につなげていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		外部評価は行っていない。	第三者評価の導入について今後検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月の運動研修では、全教室の職員が集い、内容の理解を深めている。	研修機会の充実を図っていく。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援内容を整理し、プログラムとして共有している。	より分かりやすい形での公表や整理を検討していく。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		こどもや保護者のニーズを把握し、計画作成に反映している。	より多角的な視点でのアセスメント意識していく。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員間で共有しながら支援計画を検討している。	職員間での共有や意見交換をさらに充実させていく。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	支援計画の理解を深め、より統一した支援につなげていく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		観察やアセスメントを通して状況を把握している。	観察や評価方法の活用を広げていく。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインを踏まえた支援内容を設定している。	ガイドラインを踏まえた支援内容の充実を図っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員で話し合いながら活動を立案している。	チームでの検討機会をさらに増やしていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		活動内容が偏らないよう調整している。	活動内容の幅を広げていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		こどもの状況に応じて組み合わせ支援している。	こどもの特性に応じた組み合わせを検討していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援前に内容や役割を確認している。	より円滑な連携につながる打合せを行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援後に振り返りを行い情報共有している。	振り返り内容を支援改善につなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の記録を取り、支援の改善に活かしている。	記録の活用をより支援改善に活かしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6ヶ月毎に行っている。	定期的な見直しをより丁寧に行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		定期的に状況を確認し計画の見直しを行っている。	必要に応じて積極的に参画していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		こどもの状況を理解した職員が会議に参加している。	地域との関係機関との連携をさらに深めていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		地域との関係機関と情報共有し連携している。	関係施設との情報共有を継続していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		学校との情報共有を行い移行支援を行っている。	学校との連携をより円滑に行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		関係施設と情報共有しながら支援している。	学校との連携をより円滑に行っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	6	現時点での計画はない。	地域との関わりの機会を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日々の様子を伝え合い共通理解を図っている。	より丁寧な情報共有を心掛けていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	助言や情報提供を行い家庭支援につなげている。	家庭支援の機会を広げていく。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用前後に丁寧な説明を行っている。	より分かりやすい説明を心掛けていく。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画作成時に家族の意向を確認している。	家族の意向をより丁寧に把握していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		支援内容を説明し同意を得ている。	理解を深められる説明を行っていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的な面談や相談対応を行っている。	相談しやすい環境づくりを進めている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者同士の交流機会づくりを心掛けている。	保護者同士の交流機会について検討していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談しやすい体制を整えている。	より周知を図っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		通信やSNS等で活動情報を発信している。	情報発信の方法を工夫していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		細心の注意をはらいながら、対応している。	引き続き適切な管理を徹底していく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		分かりやすい伝達方法を工夫している。	分かりやすい伝達方法の工夫を続ける。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	地域との関わりを意識した運営を行っている。	地域との関わり方を検討していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルを整備し訓練を実施している。	周知や訓練の充実を図っていく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		災害に備え定期的に訓練を行っている。	災害時対応の理解を深めていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		服薬や発作等の情報を事前に確認している。	情報共有をより徹底していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		医師の指示に基づき対応している。	安全確認を継続して行っていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画に基づき支援を行っている。	安全管理体制の見直しを適宜行っていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		安全に関する取組を保護者に周知している。	保護者への周知を継続していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事業所内で共有し再発防止に努めている。	共有と再発防止の検討を継続していく。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修等を通して職員の理解を深める。	研修等を通して理解を深めていく。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		必要な場合の対応について事前に説明し計画に記載している。	必要時の対応について職員間で理解を深めていく。	

公表

事業所における自己評価結果_保育所等訪問支援

事業所名		インクルー常陸太田教室				
		公表日 2026年 3月 25日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	6		訪問先の環境やこどもの特性に合わせて教材を選定している。	訪問先やこどもの状況に応じて活用できる教具教材の充実を図っていく。
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		支援内容や訪問状況に応じて職員配置を行っている。	内容に応じた柔軟な配置をしていく。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		訪問後の振り返りを行い、支援の改善につなげている。	全職員がより主体的に参画できる仕組み作りをしていく。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者の意見を把握し、支援や運営の見直しに活かしている。	意見収集の機会を継続し、改善への活用を強化する。
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員間で意見交換を行い、支援の質の向上につなげている。	意見共有の機会を継続し、改善への活用を強化する。
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	現時点では実施していないが、今後の検討課題としている。	第三者評価の導入について検討する。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修や法人内研修を通して専門性の向上を図っている。	研修内容のさらなる充実と参加の均等化を図る。
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	6		保護者や関係機関からの情報を踏まえ状況把握を行っている。	多角的な視点での評価手法の充実を図る。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童発達支援管理責任者だけでなく関わる職員が共通理解のもとで協議し、こどもの最善の利益を考慮して計画を検討している。	より効果的な協議・共有の充実を図る。
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	6		訪問先施設の担当者や担任と連携し施設や担任の意向を計画に反映している。	訪問先との連携の質をさらに高めていく
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		作成した訪問支援計画は職員間で共有され、計画に沿った支援が行われている。	共有方法の工夫により、支援の統一性を高める。
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		関わる職員間で情報共有しながら計画を作成している。	両面の活用をさらに高めていく必要がある。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに基づき、具体的で実践的な支援内容が計画に設定されている。	より、具体的にわかりやすい内容設定を心がけていく。
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		訪問支援計画は職員間で共有されており、各職員が計画に沿って支援できるよう工夫されている。	振り返りの内容の蓄積と活用を強化する
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援開始前に職員間で打合せを行いその日の支援内容や役割分担を確認するなど、チームで連携して支援できるよう工夫している。	引き続き工夫していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後に職員間で打合せを行いその日の支援内容を振り返り、気付いた点を共有している。	記録の活用を続け、共有していく。

関係機関や保護者との連携	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	6		訪問先施設や担任の意向を確認しながら計画に反映している。	今後も丁寧な聞き取りをし、理解に努めていく。
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	6		毎回の支援について記録をとり、支援内容の検証や改善に活かしている。	今後も引き続き行っていく。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的に保護者や訪問先の意向を確認し、必要に応じて保育所等訪問支援計画を見直している。	見直しのタイミングや方法の明確化を図る。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、こどもの状況をよく理解した職員が参加している。	より積極的な情報発信と共有を意識する
	21	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3	地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている。	連携の機会や質のさらなる向上が必要である
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就園・就学の際には、保育所等や学校と情報共有を行い、相互理解を図りながら支援している。	移行時の情報共有のさらなる充実を図る
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6		必要に応じて関係機関に連絡、助言をいただいている。	助言の活用法を整理し、質の向上につなげる。
保護者等への説明等	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		6	地域の関係機関と連携しながら支援を行う必要がある。	地域活動への参加機会の拡充を検討する
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		訪問時の様子や支援内容を保護者へ共有している。	より分かりやすく、丁寧な情報共有を行う
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		必要に応じて助言や情報提供を行っている。	支援内容や機会の充実を図る。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用前に事業内容や利用方法を説明している。	引き続き丁寧に行っていく。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	6		訪問先施設へ事業の目的や支援内容を説明している。	引き続き丁寧に行っていく。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画作成時に保護者やこどもの意向を確認している。	今後も、同意の過程を大切にしていく。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	6		支援内容を説明し同意を得ている。	今後も続いていく。
31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者からの相談に適切に対応している。	相談しやすい環境の維持をしていく。	
32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		6	保護者同士の交流機会や家族支援の在り方について今後検討していく。	交流機会の創出について検討が必要である。	
33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談しやすい体制づくりと周知を継続していく。	相談しやすい環境の維持をしていく。	
34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		通信やSNS等を活用し、継続して情報発信を行っていく。	発信内容を工夫し、理解促進を図る。	

	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の管理を徹底している。	今後も継続していく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		分かりやすい説明や伝達方法を心掛けている。	個別に応じた伝達方法の工夫をしていく
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	6		訪問先からの相談にも随時対応している。	今後も質の向上を図りながら継続していく。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	6		訪問後に支援内容を整理し訪問先へ共有している。	実施内容の充実と記録を活用していく。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	6		訪問後の支援内容を保護者へ伝えていく。	より具体的でわかりやすい報告を心がけていく。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		情報管理のルールを徹底している。	今後も引き続き行っていく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	6		訪問先と信頼関係を築きながら助言を行っている。	今後も引き続き行っていく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルを整備し訓練を実施している。	家族への周知をより、わかりやすく知らせていきたい。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画に基づき支援を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	事業所内で共有し再発防止を検討している。	非常勤の職員にも共有できるよう、情報の共有方法について知らせていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修等を通して理解を深めている。	継続的な研修と理解の深化を図る。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		必要時の対応について事前説明と計画記載を行っている。	適切な判断と記録の徹底を継続する。